

2026 年 10 月 6 日

岩谷産業株式会社

コスモエネルギーホールディングス株式会社

岩谷産業とコスモエネルギーグループが千葉製油所における水素事業を共同推進
～既設水素製造プラントと新設液化水素プラントを活用した水素サプライチェーンの構築～

岩谷産業株式会社（代表取締役社長：間島 寛、以下「岩谷産業」）とコスモエネルギーホールディングス株式会社（代表取締役社長：山田 茂、以下「コスモエネルギーホールディングス」）は、千葉県市原市のコスモ石油株式会社（代表取締役社長：西 克司、以下「コスモ石油」）千葉製油所において、既設水素製造装置の復旧及び液化水素プラントの新設を核とする水素事業（以下「本事業」）を共同で推進することを決定し、この度最終投資決定（FID）を行いましたのでお知らせいたします。本事業は、両社が2024年4月に締結した資本業務提携に基づく協業を、具体的な設備投資として実現するものです。

本事業は、コスモ石油千葉製油所構内において、コスモ石油が休止中の水素製造装置を復旧し、製造した水素を石油精製プロセスに活用するとともに、その一部を岩谷産業グループへ供給します。岩谷産業グループは、製油所構内に新設する液化水素プラントで水素を液化し、ローリー等で国内需要家へ販売します。この取り組みにより、コスモエネルギーグループは石油製品の精製工程で必要な水素を安定的に製造・調達し、製油所の安定操業と製品安定供給の基盤をさらに強化します。また、岩谷産業グループは国内で4か所目の液化水素製造拠点となり、水素の安定供給を実現し需要拡大に対応してまいります。

1. プラントの概要

①復旧する水素製造プラント

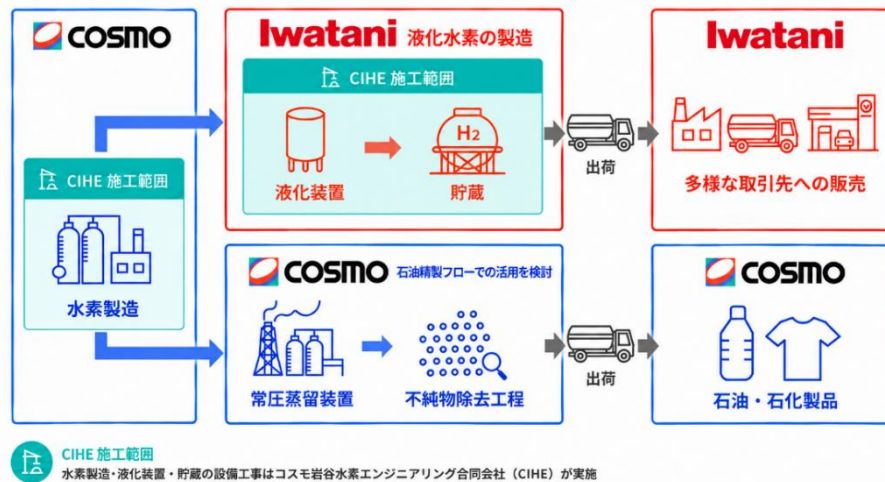
所在地	千葉県市原市（コスモ石油千葉製油所構内）
製造能力	80 トン/日相当
事業者	コスモ石油株式会社
稼働開始予定	2030 年
投資額	約 200 億円

②新設する水素液化プラント

所在地	千葉県市原市（コスモ石油千葉製油所構内）
製造能力	11.6 トン/日相当
事業者	岩谷瓦斯株式会社
稼働開始予定	2030 年
投資額	約 300 億円

本事業の EPC（設計・調達・建設）は、コスモ岩谷水素エンジニアリング合同会社が担います。コスモ岩谷水素エンジニアリング合同会社は、水素関連プロジェクトのエンジニアリング事業での協業を目的に、2023 年 11 月にコスモエンジニアリング株式会社と岩谷産業が共同で設立した会社であり、本事業は両社協業の成果を建設段階から結実させるものです。

本事業のスキームイメージ



2. 背景 — 水素エネルギーの重要性

水素は、利用時に CO₂ を排出しないクリーンなエネルギーであり、カーボンニュートラル社会の実現に向けて、モビリティ・発電・宇宙分野など、多様な用途で需要拡大が見込まれています。その普及には、安定的かつ競争力のある水素サプライチェーンの構築が不可欠です。

また、製油所においては石油製品の精製プロセスで水素が不可欠であり、その安定確保は製油所の安定操業と燃料の安定供給を支える基盤となります。エネルギー安全保障の重要性が改めて高まる中、外部要因に左右されない水素供給源の確保は、一層重要性を増しています。

こうした環境のもと、コスモエネルギーグループの製油所における水素製造・ハンドリングの知見と、岩谷産業グループの国内水素供給シェア約 7 割（オンサイト・パイピング除く（岩谷産業調べ））を有する製造・輸送・貯蔵ネットワークを組み合わせ、両社グループ全体で水素事業を強化することを目的に、本事業を推進します。

3. 本事業で得られるメリットと将来への期待

- 両社シナジーによる競争力ある水素供給：

両社が単独で設備投資する場合と比較し、製造機能を集約し製造コストを抑制することで、競争力のある水素サプライチェーンの構築を実現します。

- 製油所の安定操業基盤の強化と将来変化への対応力確保：

新たな水素供給源を確保することで、製油所操業に不可欠な水素を安定的に確保する体制を構築するとともに、将来の石油化学業界再編やコンビナート構造変化を見据えた事業継続性と拡張性を確保します。

※ （参考）コスモエネルギーホールディングス株式会社及び岩谷産業株式会社による資本業務提携に関するお知らせ（2024 年 4 月 23 日）

https://www.cosmo-energy.co.jp/content/dam/corp/jp/ja/press/2024/240423-01/240423jp_01.pdf